

令和8年度年間指導計画

| 教科 | 科目 | 単位数 | 学年 | 集団 |
|----|------|-----|----|---------|
| 芸術 | 書道 I | 2 | 1年 | 普通科・理数科 |

| 使用教科書 | 副教材等 |
|-------------|----------------|
| 書道 I (教育図書) | ペン習字の基礎 (教育図書) |

1 科目の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

| | |
|-----------------|--|
| ① 知識・技能 | ・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 |
| ② 思考・判断・表現 | ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の 伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 |
| ③ 主体的に学習に取り組む態度 | ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 |

3 評価方法

| | | |
|-----------------------------|---------------------|----------------------------|
| ア 取組みの観察 ウ ワークシート等への記述内容 | イ 作品の内容 エ 提出物の内容 | ※アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。 |
|-----------------------------|---------------------|----------------------------|

4 学習計画

| 月 | 題材 | 領域 | 項目 | 題材の学習目標 | 教材 | 評価の観点 | | |
|----|--|----|-----------|--|---------|-------|---|---|
| | | | | | | ① | ② | ③ |
| 4 | 科目の説明 書写から書道へ用具・用材の基本・姿勢と執筆法(硬筆を含む) | 導入 | | ・中学校国語科書写からの接続、書道の学習の仕方を理解する。 ・用具・用材の取り扱い方、姿勢と執筆法を理解する。 | ペン習字の基礎 | ○ | | ○ |
| 5 | 古典臨書(楷書の基本点画・用筆法)「九成宮醜泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」「自書告身」「牛欄造像記」 | 表現 | 漢字の書 | ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆ができる。 ・古典の美を感じ、楷書の用筆法(直筆・側筆・露鋒・藏鋒)、構成法(背勢・向勢・円筆・方筆)を理解している。 | | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 創作 二字句の倣書 | | | ・古典の線質、字形や構成を生かした表現をすることができる。 | | | | |
| 7 | 鑑賞 相互批評・発表 | 鑑賞 | | ・書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。 | | | ○ | |
| | 印の基本・篆書の基本 姓名印の制作 | 表現 | 漢字の書 | ・篆書・篆刻について理解している。 ・立体表現における表現効果や用具・用材との関わりを理解している。 | 石印材 | ○ | | ○ |
| 8 | 行書の特徴と楷書との違い 古典臨書(行書の基本点画)「蘭亭序」「風信帖」 | 表現 | 漢字の書 | ・行書の特徴、楷書との違いを理解している。 ・行書の基本的な用筆・運筆法ができる。 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆ができる。 | | | ○ | ○ |
| 9 | 創作 四字句の集字創作 | | | ・表現効果(墨の潤濁・文字の大小・線の肥瘦・紙面構成・気脈の貫通)を意識して、作品を制作することができる。 | | | | |
| 10 | 鑑賞 相互批評・発表 | 鑑賞 | | ・書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。 | | | ○ | |
| 11 | 仮名の成立 仮名の基本点画・執筆法 単体・連綿・変体仮名 古筆の鑑賞・臨書「蓬萊切」 | 表現 | 仮名の書 | ・仮名の成立について理解している。 ・仮名の基本的な用筆・運筆法を身に付けている。 ・線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。 | | | ○ | ○ |
| 12 | 創作 自作の俳句による作品制作 | | | ・古筆の美しさを感じ取り、仮名の基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・意図に基づいた表現を構想し、効果的な表現の技能を身に付けている。 | | | | |
| | 鑑賞 相互批評・発表 | 鑑賞 | | ・書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。 | | | ○ | |
| 1 | 漢字仮名交じりの書の成立 用筆・運筆法による表現の違い 漢字と仮名の調和 紙面構成の工夫 名筆の鑑賞・知的財産権の理解 創作 自作の詩による作品制作 | 表現 | 漢字仮名交じりの書 | ・漢字仮名交じりの書の成立について理解している。用筆・運筆法と表現との関わりを理解し、効果的に表現することができる。 ・漢字と仮名の調和した字形、大きさ、線質、全体の構成について構想し工夫している。 | | | ○ | ○ |
| 2 | 鑑賞 相互批評・発表 | 鑑賞 | | ・効果的な全体の構成を構想し工夫することができる。 ・自らの意図に基づいて、字形、用筆、全体の構成を工夫した作品を制作することができる。 ・書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。 | | | | ○ |
| 3 | 草書・隸書・篆書の成立 古典臨書(草書・隸書・篆書の基本点画・用筆法) | 表現 | 漢字の書 | ・草、隸、篆書体の成立と特徴を理解する。 ・古典作品の臨書を通して各書体の用筆・運筆の技能を習得する。 | | | ○ | ○ |
| | 創作 自作の詩による作品制作 | 表現 | 漢字仮名交じりの書 | ・意図に基づいた表現を構想し、効果的な表現の技能を身に付けている。 | 団扇 | ○ | | ○ |